



やらまいか

例会日/毎週火曜日 12:30 例会場/豊川商工会議所

会長/高桑 耐 幹事/大木健市 会報委員長/池田 弘

事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889

HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

クラブテーマ: ENJOY ROTARY 絆、みんな仲良く、クラブの未来へ

本年度第33回 通算1287回 平成25年2月26日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	2/12 修正出席率
		58名	36名	67.9%	95.8%

ゲスト: 愛知県防災局防災危機管理課 主任 高柳幸央さん ビジター: (なし)

★会長あいさつ

高桑 耐会長



こんにちは。東日本大震災で被害のあった岩手県、宮城県、福島県で約943万tのガレキがありました。2

年経って、まだ35%ぐらいしか処分が済んでなく、まだまだ時間がかかると新聞に載っていました。大変なことだと思います。

英字新聞の記事を紹介します。愛知万博の時に、ホンダのASIMOのロボットを見た覚えがあると思います。アメリカの小学校でロボットが学校に通っています。(写真)デボン君というこの学校に通う子供さんがいて、彼はウィルスなどの菌に対する抵抗力がなく、学校に通えません。ロボットが、この子の代わりに学校に通っています。生徒たちと同じように歩いたりしています。ロボットに話かけると、家のモニターを見ているデボン君と会話ができます。



Virtual student: Devon Carrow attends school in West Seneca, New York, on Jan. 24 via a computer linked to this VGo robot. He is visible on the screen at the top of the robot.

カメラもついているので、デボン君はライブで学校の様子がわかるようになっています。このロボットの値段は6,000ドル(約56万円)、維持管理費が月額100ドル、重さが8キロです。だから階段の移

動は、生徒や先生たちでしてくれます。学校に通えない子ども達も、学校に通っているのと同じような状況になれます。生徒たちの反応は、ロボットと話している雰囲気はないそうです。ロボットの技術力の進歩は凄いなと思いました。無人偵察機などもロボットの一種になりますが、アメリカでは、あと5年で1万機が空を無人偵察機が飛ぶことになるであろうと言われています。プライバシーなどなくなってしまう。進歩は凄いですが、怖い部分も同時にあると感じました。

★幹事報告

大木健市幹事

例会臨時変更のお知らせ

渥美RCの「菜の花 桜まつり」開催の案内

★社会奉仕担当例会

委員長あいさつ

堀田卓嗣委員長

こんにちは。本日は、社会奉仕委員会担当例会です。東日本大震災からまもなく2年が経とうとしています。



過去の歴史を見ますと、津波を伴う東北の地震、関東直下型、南海トラフ地震は、平安から数年の間隔で3つのどれかが起こっているのが歴史的な事実です。一番懸念されているのが、関東直下型と東海・東南海・南海地震

の2つの地震が起こる可能性が歴史的な事実から想定されています。自助・共助・公助とも言われております。共助が、地震が起こった後の人々の気持ちの助けになったと聞いています。

大地震がおこる前提としての基礎知識を知っておいて頂くことが必要と考え、愛知県の防災局防災危機管理課の高柳さんにお越し頂きお話をして頂きます。あの震災後に釜石の奇跡という言葉が出てきました。釜石は津波で多くの人命を失っています。小中学校は、日頃から防災訓練、きめの細かい基礎知識の勉強をやっていました。約3,000名の釜石の小中学生の生徒のうち、5名を除いて全員が助かったそうです。日頃からの訓練、知識が減災に役立つと思います。では、よろしくお願ひします。

卓話「防災・減災お役立ちガイド」

愛知県防災局防災危機管理課

主任 高柳幸央氏



こんにちは。本日は、南海トラフの巨大地震に備えるということでお話をさせて頂きます。私たちの住んで

いる地盤は、上の方は柔らかい土でできています。下に掘っていくと固い岩盤が出てきます。60~100 kmぐらいの厚みの岩盤の上に私たちは暮らしています。この岩盤のことをプレートと言います。プレートの下にはマントルという流動しているものがあり、プレートはその上に浮かんでいると思ってください。南海トラフと言うのは地形の事です。水深3000~5000mぐらいの溝のような地形のことを南海トラフと言います。南海トラフの向こう側は、フィリピン海プレートがあり、私たちの住んでいるユーラシアプレートに押し寄せてきています。スピードが1年間に2~7cmぐらいです。爪が伸びる早さだと思ってください。フィリピン海プレートの方が重いので、ユーラシアプレートの下に沈み込む形になっています。沈み込む時に、ユーラシアプ

レークの端を引っ張るので、南海トラフという溝が形成されています。100年経つと2~7m引っ張り込み、引っ張りに耐えられなくなり、ポンッと跳ね上がる現象が起きます。これが東日本大震災を引き起こしたようなプレートの限界で起きる地震になります。この地震とは別に、私たちが住んでいるユーラシアプレートの中で、ひび割れや亀裂が入ります。この亀裂の事を活断層と言います。活断層によって起こる地震を内陸型の地震と言います。阪神淡路大震災がこの活断層による地震でした。プレートの境界では地震が多く発生しています。統計的に、世界中で起こるマグニチュード6以上の地震のうち、約2割が日本列島の周辺で起きています。

プレート動きは昔から変わりませんので、南海トラフの地震は定期的に起きています。昔は、東海地震、東南海地震、南海地震と言っていましたが、これは震源の起こる位置に違いがあります。静岡県沖を震源とする地震を東海地震、愛知県紀伊半島沖を震源とする地震を東南海地震、四国沖を震源とする地震を南海地震と言います。すべて南海トラフを震源としています。1946年からしばらく起きていないので、南海トラフを震源とする地震が起きるのではと危惧されています。

地震が起きるとどのくらい揺れるか、震度7は耐震化している家でも運が悪いと壊れてしまいます。震度6強は、耐震化してない建物はほぼ全壊します。豊川市は震度6弱で、固定してない家具が倒れるほどの揺れです。

地震は、プレートの活動で必ず起こるものです。しかし、地面が揺れるだけでは人は死にません。地面が揺れることで、火災、倒壊、津波などの現象が引き起こされて、それに伴って多くの方が亡くなっています。関東大震災は、主に火災による10万人近くの方が亡くなっています。阪神淡路大震災は、主に建物の倒壊によって約6千人の方が亡くなっています。東日本大震災は、津波によって約2万人の人が亡くなったり、未だに行方不明です。

地震の被害には、液状化被害もあります。海や川の近くで掘ったらすぐに水が出る地盤や、埋立地が危ないです。濃尾平野南西部、岡崎平野南部、豊橋平野で特に危険性が高いです。

津波被害は、平成14年度に愛知県が実施した想定では、三河湾などの内海では、1~2m程度の高さで想定されていましたが、東日本

大震災などの検証から、内海でも2~5mの高さが予想され、愛知県では、現在被害予測の見直しを行っているところです。

平成24年8月29日に内閣府が南海トラフ地震の被害想定を出しまして、愛知県は、建物や家具の倒壊で約15,000人、津波で約6,400人、火災で約1,800人と多くの方が亡くなるのではと予測しています。建物の倒壊や津波に備えることが大事になります。

阪神淡路大震災のデータから、震度6強になると建物の倒壊が起こると言われています。特に昭和56年以前の建物が倒壊の恐れがあります。昭和56年は建築基準法が改正された年になります。昭和56年より新しい建物は、建築基準法上で耐震がしっかりしているということから、地震がきても倒れにくいと言われています。昭和56年以前の建物にお住まいの方は各市町村で無料の耐震診断をしてきて、耐震改修助成もしています。該当される方はお問い合わせ下さい。

他には、家具などの転倒落下防止、非常用の持出し品の準備、食糧・飲料水の準備、ハザードマップの確認などを行って頂きたいと思います。

阪神淡路大震災の時の救助活動は、約35,000の方が救出されました。うち約8,000人が警察・消防・自衛隊によって救出されました。警察・消防・自衛隊が到着するのが非常に遅かったこともあり、救出された半数の方が亡くなっています。一方、約27,000の方は近所住民によって救出され、8割の方が生存されています。ですので、普段から町内会の自主防災組織の活動が出来ているかどうかによって、地域の防災力が変わってきます。

自助、共助、公助の連携が大切になってきます。公助は愛知県や市町村の備えで、本日の様に皆さんに防災への取組みをお願いすることも一つの活動となります。自助は、各ご家庭・企業での耐震対策、共助は町内会などの防災活動などになります。相互に連携して、地域一体として災害に取り組んでいく、そういった社会の構築を愛知県では目指しています。愛知県では、「あいち防災協働社会推進協議会」といって、行政だけでなく、ボランティア、地域住民、企業



と協力して、①防災知識の普及啓発、②安全への備えの促進、③連携による地域防災力の向上にと取り組んでいます。本日配布したガイドブックも発行しています。防災を担う人材の育成として、防災・減災カレッジなども行っています。なお、この防災・減災カレッジは、参加者の受講料と協賛金で運営しており、県からの予算は出ておりません。この活動にご理解頂けます企業の皆様方にはご協賛のご協力よろしくお願ひします。ご清聴ありがとうございました。

愛知県防災局ホームページ

<http://www.pref.aichi.jp/bousai/>

アンケートの中に、「県政お届け講座」が自主防災会(町内会)でも申し込みができるのか?という問い合わせがありました。

↓

県政お届け講座は、地域・コミュニティで行われる集会や会合(県民がおおむね20名以上)であれば、県職員が伺い、県民の皆様さまにさまざまな県政情報をわかりやすく説明します。

県政お届け講座のホームページ↓

<http://www.pref.aichi.jp/0000036522.html>

★ニコニコボックス

堀田卓嗣会員 結婚記念日を祝って頂き

クラブ目標：会員増強純増	3名
クラブ目標：R財団寄付額	\$100/人
現在の状況	
会員増強	純増1名
R財団寄付額	\$74/人

会報担当者：池田 弘会員、杉浦元保会員

このウィークリーは再生紙を使用しています。